

# 今こそ、地方とつながる「都市での木づくり」を 世界に誇る、日本の技術と文化を生かして



「世界有数の森林国」日本は、国土の約3分の2が森林で覆われており、豊富な森林資源が蓄積されている。近年では都市での大規模な木造建築を可能にする技術革新も進んでいるなか、地球温暖化防止や、人の心身をリラックスさせてくれる効果がある木材が、ますます注目されている。10月10日には東京都千代田区で、「木づくり推進月間2014記念『2020年につなぐ、都市での木づくりシンポジウム ～建築家と語る、都市建築物での木材利用の未来』」が開催された。



©田中雅也 / 月刊ソトコト, 2014



林野庁 木材産業課長 小島 孝文氏

地方創生にもつながる「都市での木づくり」シンポジウムでは、林野庁 木材産業課長の小島孝文氏、建築家の山梨知彦氏、山田敏博氏の基調報告があった。小島氏は、戦後の日本ではスギやヒノキといった製材用の樹種を中心に植林が進められたこと、その結果、植林された人工林の蓄積は50年間で5倍に拡大し、全国に豊富な資源が生まれていることを説明。「地方では今、地域の資源を活用した産業創生が求められている」と話した。

**都市建築物での木材利用のポイント**  
山梨氏は2009年、木材



建築家 株式会社日建設計 執行役員 設計部門代表 山梨 知彦氏

「木材を使うための技術が一般化されていない」と「木材が高級化して現実的に普及しにくいこと」を挙げた。解決のために提案するのは、いかなる全部木材にするの

では、適した箇所から用いる「適材適所」、経年変化にもなる「エイジング」の魅力、火災時の煙の制御などを設計に盛り込む「安全性」、コンピューターを活用する「生産性」の観点だ。山梨氏は新国立競技場など、五輪に関わる施設に木材を使用することを提案している。それだけに「木の魅力を次世代に引き継いでいけるか、今

「法改正に加えて木材加工の技術革新が進み、大規模な木造建築を可能にする耐火・耐震性に優れた木質材が出てきています。大規模な木造建築が建てられる環境が整い、「都市木造」も実際に建ち始めている」と話す。

今年9月には、2020年東京五輪・パラリンピックの競技場周辺や、さらに開催後の街のあり方まで、木造の観点から提案する展示会を実施、大きな反響を呼んだ。「木を中心にしてつくられた街を、ぜひ想像してみてください」と話した。



選手村を中心とした五輪後の街の提案 (写真/浅川徹)

## 基調講演 地域で広がる、世界で広がる、都市での木づくり

木は世界に「日本」を発信する武器になる



建築家、東京大学教授 隈 研吾氏

世界各地で建築に携わるなか、日本人の木を扱う技術・感覚は世界一であることを実感します。製材品だけでなく、建築物や家具、日用品などを作る技術を含めて輸出すれば、世界に「日本」を発信でき、国際競争の武器となります。それに国を挙げて木材利用を促進する機運を高めることが重要であり、そこから世界の中で、日本の位置を確かなものにしていけるでしょう。

## 街の足元まわりから木材利用を

2020年に向けては、道路の舗装、歩道、ベンチといった足元まわりなど、可能な部分から木材利用を。技術の進歩で燃えにくく、腐りにくくする加工ができ、色が変わって嫌なら、面を変えての再利用もできます。人間は本来動物なので、木が増えれば触れたくなるし、優しい気持ちになれるでしょう。適切な木材利用は、地球温暖化防止にも効果的です。特に重要なのが地域の木材利用で、海外では、施主が建築物の環境評価を考慮して、地域資源を積極的に使用しています。日本でもそうした動きが増えることを期待しています。



地域で加工した木のみで建てた「橋原 木橋ミュージアム」

建築家 一級建築士事務所HUG代表 (NPO) team Timberize 理事 山田 敏博氏



今年9月には、2020年東京五輪・パラリンピックの競技場周辺や、さらに開催後の街のあり方まで、木造の観点から提案する展示会を実施、大きな反響を呼んだ。「木を中心にしてつくられた街を、ぜひ想像してみてください」と話した。

**木材が開く、新たな街づくりの可能性**  
続いてのパネルディスカッションでは、木材の魅力や皮切りには、活発に意見が交わされた。まず隈氏が、日本人が持つ木造への愛着を挙げると、山梨氏は肌触りや香りなど、木の情緒的な魅力に話を進めた。「20世紀の建築が忘れてきた、温もりや香り、経年変化のわびさび」。木が本来持つ良さを、21世紀の建築家が引き出すべき」というのが山梨氏の持論で、木造は設計の自由度が高いことにも良さを感している。

一方、山田氏は、素材に着目して設計やデザインをすることをテーマに活動。2000年の建築基準法改正で、大規模な木造建築が可能になった際に「都市建築の主役ではない」と思われていた木材を使い

「都市部の新しいデザインが生まれるのでは」と予感し、木を使った作品を発表し始めたという。では、都市での建築に木材を多く使ってもらうにはどうすればよいか。隈氏は、木材の色などが経年変化するエイジングについて、広く理解してもらうことを挙げた。発注者側に対して「無理強いではなく、コミュニケーションを取ろう」と先入観がなくなり、エイジングの良さを分かっていたらいいと山田氏は、展示会を都内で開催した際、展示物の木の香りに引かれて会場に入ってきた人に出会った。「無味無臭がこれまでの都市のイメージだが、それに物足りなさを感じ始めていたのかもしれない」と、木が見直される契機を感じている。「木材は、都市と地

方をつないでくれる素材でもある。地方の方々が東京の街づくりに参加することで、街が変わっていくのでは」。小島氏はそれに「東京大阪という大都会だけでなく、日本全体をどうしようか考えることが重要。互いの人の交流が生まれ、各地が活性化すれば」と期待を述べた。2020年は、木が香る街で「おもてなし」を

伐採までは約60年周期。2020年に使う材は、1964年の東京五輪誘致が決まった頃に植えられたもので、今回も木を使うだけではない理由だ。今後、都市で木づくりが盛んになることで、木材は熱くうえて、隈氏は「木材は熱をもちにくく香りがよいなど、都市のミクロな問題を改善する効果があります。建物や街路などに木が多ければ、快適に歩ける街になるので、訪れた人が「東京は気持ちがいい」と思ってくれる」と力説。それを通して、日本人が持つ世界の木材加工の技術や、素材への繊細さやアビリティで、国際競争の武器にもなると話した。さらに「五輪パラリンピック後の街づくりを視野に入れた仕掛け」と山田氏が話した。「木材は再加工しやすく、手で触れた愛着を残しやすい素材。大会をピークではなく、スタート地点としてほしい」と提言した。

木づくり推進月間2014記念 『2020年につなぐ、都市での木づくりシンポジウム ～建築家と語る、都市建築物での木材利用の未来』 (林野庁補助事業) 【主催】(公社)国土緑化推進機構、(一社)全国木材組合連合会 【共催】(NPO) 活木活木ネットワーク

## 都市と地方の絆をつなぎ、木に包まれた心地よい街づくりを

パネルディスカッション 「建築家と語る、2020年に向けた都市建築物での木材利用」

## interview

建築士・食空間コーディネーター 慈道美奈子さん

## 癒やしとおしゃれを演出する「木のある暮らし」

**木を取り入れ、食空間をおしゃれに**  
今回は女性に向けて「木のある暮らし」をテーマにテーブルコーディネートを提案しました。女性をおもてなしする場合は、トータルイメージづくりが重要。そこでインテリアや食器など、木の材質や色、デザインが統一感をもつようを選びました。最近新しい感覚の木製品も多く、選んで楽しかったですね。そして、「いつ」「どこで」「何を」「誰と」「どのように」「何のために」食べるのか考えながら、空間を設計していきます。

**日本の森の木で、リラックス**  
注文住宅の設計に携わった経験もありますが、木の良さは、五感を癒やす効果。特にヒノキなどの国産材はさまざまな感覚を刺激し、リラックスさせてくれます。暮らしに気軽に取り入れていただくなら、器やスプーンに木製品を選べば、肌で温かみを感じられ、木の香りも楽しめますよ。

国産材の家具は、特定の産地など「土地のもの」にこだわると統一感が出ます。国産家具は加工技術も優れていて、若い人にも合ったタイプも増えています。ぜひ取り入れてほしいですね。



食空間プロジェクト(株)代表取締役。マリナー・インテリア代表。FSPJテーブルコーディネーター(銀座・横浜)代表。建築士・インテリアコーディネーター・食空間コーディネーターの資格を持つ。女性のライフスタイル提案に特化し、独自の手法でインテリア&テーブルコーディネート事業を展開。スクール運営のほか、イベント・パーティー・商品開発も行う。

慈道さんのテーブルコーディネートなどで使われた全国各地の木を使った木製品などが、こちらのサイトでご覧いただけます。コカール「木のある暮らし」～Life with Wood」 <http://colocal.jp/>

## その木、どこの木? 木材利用ポイント

木材利用ポイント事業のポイント付与対象期間は9月末で終了しましたが、ポイント申請受付期間は2015年5月末までです(ポイント発行額が予算額に達した場合には、その時点で発行終了となります)。ポイント対象の住宅を建てられた方は、お早めに申請を! [詳しくはこちら http://mokuzaai-points.jp/](http://mokuzaai-points.jp/)

## 木の魅力をみんなで体感

えりすぐりのおしゃれな木製品も

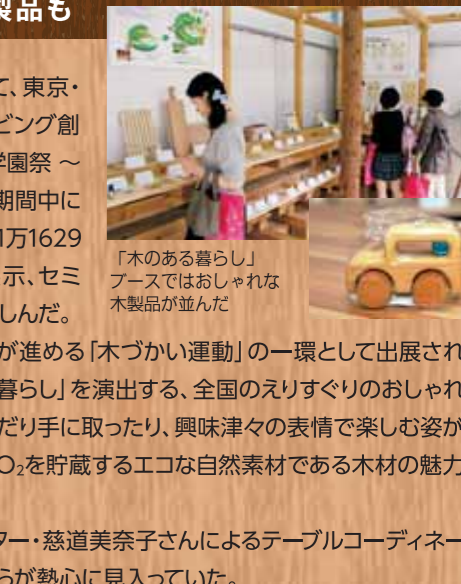


来場者の注目を集めた慈道美奈子さんによるテーブルコーディネート

10月6日(月)から10日(金)にかけて、東京・大手町の東京サンケイビルで、シティリビング創刊30周年記念イベント「働くオンナの学園祭～賢く・楽しく・美しく～」が開催された。期間中には周辺のオフィスで働く女性を中心に1万1629人が来場し、キッチンカーやブース展示、セミナーなど学園祭さながらの雰囲気を楽しんだ。

なかでも注目を集めたのは、林野庁が進める「木づくり運動」の一環として出展された、木材で組まれたブース。「木のある暮らし」を演出する、全国のえりすぐりのおしゃれな木製品などが紹介され、のぞき込んだり手に取ったり、興味津々の表情で楽しむ姿が見られた。来場者らは心身を癒やし、CO<sub>2</sub>を貯蔵するエコな自然素材である木材の魅力に親しんだようだ。

また会場では、食空間コーディネーター・慈道美奈子さんによるテーブルコーディネートの実例も展示。情報感度の高い女性らが熱心に見入っていた。



「木のある暮らし」ブースではおしゃれな木製品が並んだ